

<絵本紹介>

～「いつでも会える」～

菊田まりこ著 学習研究社



飼い犬シロと、飼い主みきちゃんの魂の交流を描いた絵本である。

いつもみきちゃんと一緒にあそんだり、ご飯を食べていたシロであるが、ある日突然にみきちゃんがいなくなってしまう。そう、みきちゃんは天に召されてしまうのである。シロはみきちゃんをさがしてまわるが、この世の目では会えない。

悲しむシロ……。

そして、心の目が開かれたとき、じつはみきちゃんがシロの心のなかで生き続けていることを知る。

「ぼくは、シロ。みきちゃんにいつでも会える」

シロにとって死別が実は永遠に一緒にいることを教える救いの絵本である。

「子どもに死という非常にデリケートな問題を教えるためにもこの本は秀逸である」という評価とともに、この本はボローニャ児童賞国際審査委員会から1999年度ボローニャ児童賞・特別賞を受賞している。近しい人を見送った方々に是非お勧めしたい一冊である。

死生観の確立に大きな一助けとなるであろう。

なおこの本の絵本版とともに、DVD版もあることを付け加えておきたい。

山本雅基

<協力団体>

※カフェ・アリエッタ

<発行>

NPO 法人こどものちから

〒136-0073 東京都江東区北砂5-20-18-211

TEL : 080-6867-6135 アドレス : power-of-children@ezweb.ne.jp

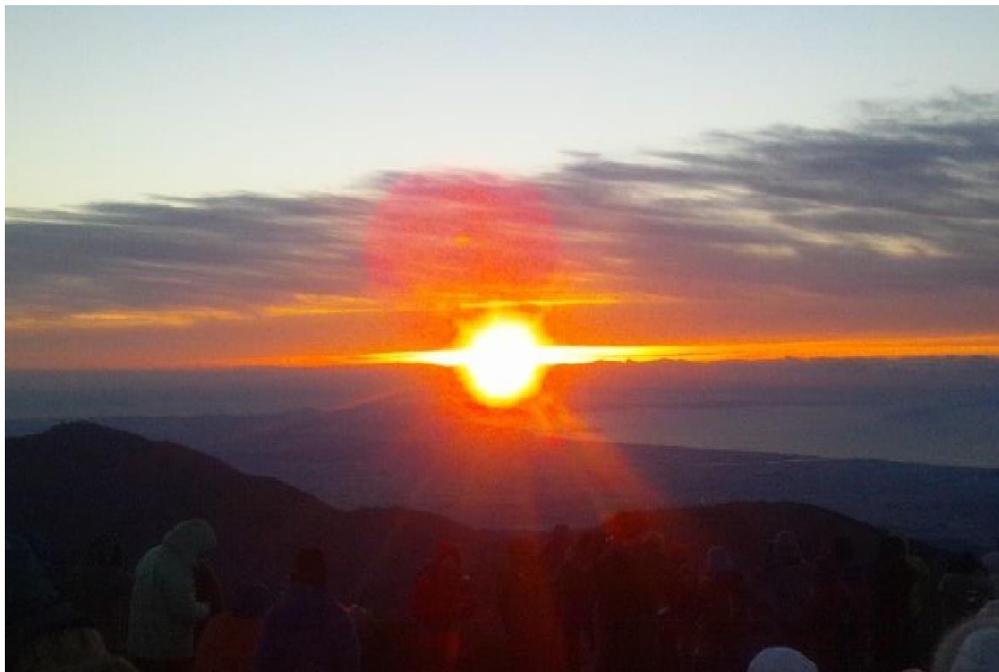
口座名称 : NPO 法人こどものちから

振替口座(郵便局) : 00170-7-571697

てをつなごう～!

「こどものちから」通信

NO. 4 2013. 6 月発行&不定期発行



<塔ノ岳より初日の出を望む>

「NPO法人こどものちから」 幕開けです!



～目指せ！

病児と家族の「困った」「〇〇だったら、良いのにな～」を支援！！～

自らが小児がんの子どもを持つ親となって16年。今まで沢山の病児や家族と関わる中で、強く感じてきたことは、子どもが病気になったことを単なる不幸な出来事だけの体験と病児も家族も捉えないで済むような支援や安心して過ごせる場所の必要性です。

この春ようやくそれらの思いや現状を理解してくれる仲間や協力者の支えによって、「NPO 法人こどものちから」を誕生させることが出来ました。

NPO 法人こどものちからは、以下のような場所を目指して、がんばります！！

- ・「成長の場」…きょうだいを必要時、預かり楽しい時間を過ごせる施設。
- ・「居場所」…病児や家族が、休息や宿泊など利用したい時に使用出来る施設。
- ・「良循環を生み出す場」…病児や家族が孤立せず、様々な立場の人と繋がれる施設。
- ・「レスパイトケア (休息) の場」…溜まった疲れをほぐし、気分転換や活力を育む施設。
- ・「偏見の壁を低くすることが出来る場」…地域の人々との関わりや交流によって、病児や家族・病気に対する理解を広げることが出来る施設。

〈後援会員募集〉

現在のところ拠点となる場所がなく、定期交流会は公共施設などを利用しています。場所の確保やそれに伴う運営資金が必要です。活動にご理解・ご協力頂ける方のご入会・ご登録をお願い致します。

※後援会員費について

個人年会費：3,000 円 団体年会費(1 口)：10,000 円

※年会費のご送金について

郵便振替番号：00170-7-571697

口座名：NPO 法人こどものちから

会費以外のご寄付につきましては、通信欄にご記入の上、会費と同じ口座をご利用ください。

お問い合わせは、TEL：080-6867-6135

アドレス：power-of-children@ezweb.ne.jp

「NPO 法人こどものちから」事務局までお願い致します。





<手洗い編> ～看護師の立場からの提案～

梅雨に入り暑い夏に向かう時期、様々な食べ物の扱いに気をつけ、感染に注意する時期になりましたね。

まず、何気なくする手洗いですが、一番汚れやすい部分をお伝えしておきましょう。

指先、手首、親指周囲です。爪先、小さいところはいろんなものが入りましたね。両手をグーにしてお互いの爪を向かいあわせに、横に移動すると洗いやすいです。片方の親指を手全体で握り、クルクル洗いましょう。

ところで、手には大切な役割があります。もちろん多種多様な使い方ができ、それが人間たらしめ、脳の老い防止にも役立っているのですが…。

手当て、という素敵な言葉があります。

当時私は、がんセンター勤務ひよっこの一年目。夜勤中にお腹が痛いという末期の患者さんに、指示された点滴をしたものの、痛みがとれずただオロオロするばかり。先輩ナースに声をかけると、そっとかけより、先輩は「どこが痛むの？」と尋ねました。「この辺り…」と脇腹をおさえる患者さんのその場所に手をおきました。「痛いね…。しんどいね…。」さすること五分足らず…「ああ、楽になりました。」当時習いたての看護の勉強で凝り固まっていた私の、目からウロコの出来事でした。手の素晴らしい力。一年目の私でも寄り添い、そばにいてできることの嬉しさ、思い返せば家庭で絶えることなく行われてきた、お母さんの手の優しさかもしれません。

東洋医学では、手の中心にある労宮というツボから、わずかな磁力がでていて効果があるとも言われます。

どうか貴方のきぼうの手を大切に。

小林文香



<おもちゃ紹介>

～森の遊び道具“モザイク ZOO”～ エド・エンター社

きれいに並んだ20ピースのパズルは、よく見るとかわいい動物の形をしています。パズル遊びはもちろん、積み上げ

たり、組み合わせたりと立体的にも遊べます。動物を使って、お話しの世界を作り上げ、会話が広がり、ごっこ遊びへ展開。“親から子へ”伝えたい生活の智恵を押しつけることなく遊びながら組み込むことも出来ます。もちろんお子さんの“今”の表出も…豊かな創造力を養いながら、バランス感覚を身につけます。収納箱の下には動物のガイドラインがプリントされていて簡単に元通りに納めることが出来ます。対象年齢は、3歳以上になっていますが、さわり心地、持ちやすさ、軽さ等を考えると、**大人**と一緒になら1歳未満でも十分に遊べます。

井上るみ子

<学校を考える ①>

～教員の立場からの提案～

日本人は学校が「好き」です。いやそうでもないのではないかというご意見もあるかとは思いますが、私は「好き」と見ています。マスコミには連日のように、「今の学校がどれだけ駄目か」とか「最近の教員の資質が・・・」とか「教育の方向性は？」などと報じられています。また、日本人は学校と教育についてはたいてい一家言持っており、教育が話題になって引っ込んでいられる方は、まあ少ないでしょう。

「NPO 法人こどものちから」は、“小児がんの子ども達の日々を支えたい！”と考えているのですが、教育面について考えるときに、“学校って何だろう？”ということが気になります。このテーマは、実は正解がないテーマなのですが、しばらくうろろるとこの周辺について書いてみたいと思います。

「学校」という言葉は、古くは「足利学校」というのがありましたが、今言う学校としては、明治日本において制度として成立しました。学校の「学」には、やり取りを行うというニュアンス、そしてそれを「子」の上に屋根を置いて行うという形になっています。「校」にも情報を取り交わす場所という意味があります。一方、英語の「School」の語源は、「暇」という意味のギリシャ語だそうですが、キリスト教を学ぶ場というような感じになります。働かないでよい時を過ごすという意味ならば、なんだか楽しそうですね。そのあたりを掘ると日本と欧米の文化の違いになりますが、今回それはパスしておきます。

学校にはさまざまな機能がありますが、施設設備面を見ても多様です。教室にはデスクと椅子。掃除用具。特別教室として、理科室、図工室（美術室）、音楽室、家庭科室、図書室、体育館。管理部門として校長室、事務室、主事室（以前は用務員室といました）。保健室もありますね。学校種によってさらにたくさんのバリエーションがあるので省きますが、これらの中で最も学校を象徴するのは何だと思えますか？

私は、学校の周近的な機能を取り去ると、最後に図書室が残ると思っています。図書室には、大仰に言えば人類の智が集っている。書き著すということは伝えたいという気持ちの中でも最も強いものかもしれません。それが集まっているのだから図書室には一種別格のオーラが漂っています。

知りたい、調べたい、判りたい、という目的に応えることができるのが図書館です。学校には必ず図書室があり、そこに整えるべき書籍については法的に数量が定められています。そういう環境からも切り離されてしまうことが「入院」という状態であることを念頭に「NPO 法人こどものちから」は、活動していきたいと思っています。

高水英壽



～出来ることから始めよう！！～

〈お誘い〉

※定期交流会・・・2013年6月～

毎月第4土曜日午後1時～3時、病児と家族を対象に実施しております。

内容は、身近な材料を使っての簡単なおもちゃ作り挑戦コーナーや外気功を受けて疲れた身体を優しくほぐすコーナー、ハンドトリートメントコーナー、おしゃべりしながらのリボンストラップやわらじストラップ作り挑戦コーナーです。

- ・6月29日(土) 佃区民館5号室(和室)にて開催予定
住所:中央区佃2-17-8
最寄り駅:有楽町線・大江戸線「月島駅」4番出口
徒歩1分



- ・7月27日(土) カフェ アリエッタ 3Fにて開催予定
住所:中央区湊3-18-20
最寄り駅:八丁堀駅・月島駅(徒歩8分)
新富町駅(徒歩10分)・築地駅(徒歩11分)



- ・8月は、お休みです。
- ・9月28日(土) 場所未定

※参加費: 大人500円、病児・子ども無料

※ご参加下さる方、井上までご連絡お待ちしております。

※リラ・プレカリアのご自宅訪問

日本福音ルーテル社団にて行われておりますリラ・プレカリア。

ゆったりと優しく奏でられるハープの音色と歌声は、痛みの軽減・心拍数や呼吸、精神的な安定をもたらす効果もあると言われています。

グレゴリオ聖歌や祈祷歌、子守歌、童謡などを中心とした曲が、聞き手の状態に合わせて演奏されます。在宅療養となり外出がままならない病児が、ゆとりと癒しの時間として御希望される時に、ご連絡ください。手配させていただきます。

尚、施術料は無料にて行わせて頂きます。



※定期交流会、リラ・プレカリア、当会に関するご連絡・お問い合わせ・・・

「NPO法人こどものちから」事務局 井上るみ子

TEL : 080-6867-6135 アドレス : power-of-children@ezweb.ne.jp



「こどものちから」 お楽しみイベント

第2弾 「お花見会」

実施日時:2013年4月7日(日) 午前11時～

実施場所:清澄庭園・庭園内「涼亭」

住所:東京都江東区清澄2-2



※参加者:大人10名、患児1名

※天気予報では、台風クラスの低気圧の通過により暴風雨が激しいと言うことで、当初予定の清澄公園から道を挟んで、隣の清澄庭園内“涼亭”という施設をお借りして実施致しました。



池にせり出した純和風の施設は、27畳40名を収容できる広々とした造りでした。池の鯉を眺めたり、風に舞う桜の花びらを眺めたり、おしゃべりをしたり、あっという間の2時間半でした。

12時30分に施設を出て、その後はお天気も良くなったので、庭園内の広場にある桜の木の下でおしゃべりの続きや皿回し、散策などを行い、2

時30分に解散となりました。

やはり屋外での交流は、身も心も開放的になるので、気分転換やストレスの発散には良いと思います。今後も季節を感じるイベントとして実施していきます。病児や家族ほか、たくさんの方々に参加して頂き、楽しい時間を共に過ごすことができたらよいと思います。

次回は、焼き芋会を企画しますので、ぜひご参加下さい。



「こどものちから」 お楽しみイベント 第3弾

「藤田浩子さんお話し会」

実施日時：2013年5月8日(水)午後2時～4時

実施場所：聖公会 浅草聖ヨハネ教会

住所：〒111-0051 東京都台東区蔵前2-7-6

※参加総数29名。残念ながら今回は、大人だけの参加でした。

※藤田浩子さん・・・1937年東京生まれ。福島県三春町に疎開し、昔話を聞いて育つ。幼児教育に携わりながら幼稚園をはじめ、小学校や大学などでも小道具を使った楽しいおはなしを語り、大人向けの講演会のため全国を飛び回る毎日。アメリカのストーリーテラーたちの招待で、日本の民話やわらべうたを紹介。アメリカで子どもの文化功労者に贈られる「ペガサス賞」を受賞。

※日本やアメリカの民話を中心に、手遊び・わらべ唄など、聞き手も参加して、楽しい時間を過ごしました。

※アンケート回収 13通

- ・とても楽しかった。(9通)。
- ・あたたかいひととき時でした。
- ・明日から、また頑張れそうです。
- ・心が明るくなります。
- ・本当に心いやされるひとときでした。このあたたかさを子ども達へ届けられるようにがんばっていきたい。
- ・貴重な体験が出来ました。
- ・大人ばかりの参加がもったいない。子ども達と一緒にききたかった。(2通)
- ・元気を頂きました！アメリカのステキな空気も出てきた気がします。
- ・子どものように無心で聞きました。わる口遊びも子どもたちと楽しみたい。
- ・参加型のお話し会で十分に楽しむことが出来ました。
- ・会が長く続くことを願っています。
- ・子ども達が笑顔でいられますように。

※※次年度は5月10日(土)午後2時～4時です。

場所などの詳細は、年明けに連絡いたします。

次回も沢山の方々、もちろんお子さん
のご参加もお待ちしております。

